

CONTENTS

- P1 北の縄文コラム
- P2 イベント開催報告
- P3 会員メッセージ
- P4 コラム、編集後記



▲カックウ・しゃごちゃんと記念撮影。
左：北海道中央バス（株）二階堂恭仁代表取締役社長、中：鈴木直道北海道知事、右：北の縄文道民会議 戎谷侑男事務局長

JOMON NEWS

縄文ラッピングバス走行中！

お披露目会を開催

前号でも取り上げた縄文ラッピングバスについて、令和3年1月5日（火）に道庁で報道陣向けお披露目会が行われました。

鈴木知事は「世界文化遺産への登録は道民の悲願。動く広告塔として、多くの人に知ってもらおうきっかけとなれば」と期待を寄せています。

現在札幌-小樽間を好評運行中です。ご注目ください。

北の縄文コラム



北海道商工会議所連合会
会頭 岩田 圭剛

札幌市出身。1980年、岩田建設取締役、86年副社長、98年社長。2007年、岩田地崎建設社長に就任。2016年、北海道商工会議所連合会会頭に就任。北の縄文道民会議副代表。

平成14（2002）年、第6回北海道・北東北知事サミットにて、北の縄文回廊づくりが提起されてから19年、「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、7月の世界遺産登録に向けて、今まさに正念場を迎えています。世界遺産登録に向けての道のりは決して平坦ではなかったと伺っております。

地元の縄文文化や遺跡の有する価値に対する理解と世界遺産登録への機運醸成を図るため、函館商工会議所では、近隣の商工会と連携し、平成25（2013）年に道南縄文文化推進協議会を設立し、市民に応援していただけるよう粘り強い周知・啓蒙活動に取り組んでこられました。

こうした活動に加え、平成28（2016）年の北海道新幹線（新青森駅～新函館北斗駅）開業を契機に、今までに増して北東北との人的交流を深め、津軽海峡を挟んだ広域連携の絆を強め、6回に及ぶ国内推薦への挑戦を経て、今日に至っております。

世界遺産に登録されることは、この貴重な縄文遺跡を後世に残していくことはもとより、その知名度を世界的規模で広め、多くの、そして多様な国の方々がその地を訪れるようになることで、まちおこしの起爆剤となることが期待できます。

本年7月には、東京オリンピック・パラリンピックの開催、9月にはアジア初となるアドベンチャートラベル・ワールドサミットが北海道で開催される予定です。

縄文遺跡を巡ることは、自己の教養を高めることを目的とした「スコール・ツーリズム（学び観光）」や「アドベンチャー・トラベル」の一要素になります。

また、昨年7月には、白老町に「アイヌ民族共生象徴空間（ウポポイ）」が開業いたしました。北海道の縄文文化からアイヌ文化への歴史的時間を紡いでいくことは、世界に通用する魅力の一つとなります。

こうした好機を捉え、北東北・北海道の縄文文化と全道に分散するアイヌ文化とを連動した観光など、ポストコロナ時代の新しい観光スタイルを提案し、北海道の奥行きをより体感できる観光を展開して参りたいと存じます。

縄文遺跡群は、人類共通の宝として未来へ伝えていかなければならない貴重な文化遺産であり、この魅力を世界へ発信するチャンスであります。

一方で、登録後を見据えると、観光客への安全性、ユニバーサルデザインの導入、訪日外国人客対策、案内標識整備、駐車場の確保など、知名度向上と共に浮上する課題も挙げられます。

登録効果を最大限に発揮させ、持続的なものにしていくためには、これら課題を解決していくことも必要であります。

北の縄文道民会議 堀代表をはじめ、地域の方々、全国の縄文ファン、考古学ファンの皆様とともに、我々商工会議所も目前に控えた世界遺産登録に向けて全力を尽くして参ります。

そして、登録のあかつきには、積極的に情報を発信し、課題に取り組み、地域の発展に貢献して参る決意であります。

引き続き、世界遺産登録に向けて共に頑張りましょう。

空中土偶と中空土偶

阿部 千春（函館市縄文文化交流センター元館長）

北海道唯一の国宝「空中土偶」（約3500年前）は、中が空洞なことからその名が付いている。愛称は「茅空（カックウ）」である。いつもは函館市縄文文化交流センターで、月光のような淡い灯りに照らされ展示されている。やはり一番の人気者で、時折、来訪者が感嘆の声を上げながら取り囲んでいる場面に会える。

「これ、空中土偶って言うんだよ」という声が聞こえることも度々あった。その都度、「あら、本当は中空土偶なのだけど」と思うのだが、楽しみに話している時に訂正する勇気がなく、いつか気付いてくれるだろうと期待するに留まっていた。

どうやら「空中土偶」と認識している人が多いらしく、一度、某大手新聞にも「空中」と書いてあり、驚いた。いよいよ展示解説に「空中」ではありません。「中空」です、と但し書きしようかと考えたが、無料なのでやめた。

博物館グッズの開発会議で、この「空中」の話題が出た。「困ったね」と笑って話していたが、ふと閃いた。「空に浮かぶ土偶のボールペンは？」と提案してみました。軸にオイルが充填され、動かすときの絵が動く仕組みのやつだ。

現在、函館市縄文センターでは、傾けると縄文土器の中から土偶が出て、南茅部の青い空中に浮かぶボールペンを販売している。デンマークのエスケセン社だ。念のため、小さな文字で「中空土偶」と書いてある。



▲ゆっくりと浮かんで沈んでいくカックウかなんとも変な感じ

JOMON COLUMN



日増しに春の訪れを感じる季節を迎えましたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。『北の縄文』春号の発行にあたり、北海道商工会議所連合会会頭の岩田圭剛様、(株)ケイエムアドシステムの浅田卓也様からメッセージをお寄せいただき、お礼申し上げます。「縄文遺跡群は、人類共通の宝として未来へ伝えていかなければならない貴重な文化遺産」です。「北の縄文世界遺産登録」の夢実現まで、いよいよ、あと一歩となりました。編集部一同は、今後も縄文パワー全開で『北の縄文の魅力』を発信してまいります。(T.H)





会場は札幌駅前通地下歩行空間の北3条交差点広場（西側）。地下鉄さっぽろ駅に近く、日頃から人通りが多いエリアであること、滅多にお目にかかれぬ土偶や土器に、みな興味津々。

縄文春まつり in チカホ
2021年3月5～7日

「一巻四温の言葉とおり、あたたかさ」と寒さが交差する日々が続く中開催された今年の「縄文春まつり」は、3日間でおよそ6500名の方々に立寄りいただき、大盛況のうちに終えることができました。

今回は、昨年8月1日から4日までの間、同じくチカホで開催した「縄文夏まつり」の内容を、よりパワーアップ。北海道・北東北を代表する土偶が10点以上集まり、圧巻の展示となりました。さらに、夏まつりで初披露となった、北翔大学と北海道縄文世界遺産推進室が共同制作した「縄文トランスプロジェクト」が再登場。新たに追加された映像もあり、多くの方が足を止めて作品を鑑賞していました。

はかにも、世界遺産登録をめざす道内の縄文遺跡群構成資産及び関連資産の特徴をクイズで学べるオリジナルARコンテンツを初展示しました。

これまで縄文に興味があった方にも、少しでも関心を持っていただけたら、これからイベントを開催する予定です。

ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

▼ARコンテンツ搭載の解説パネル



▲「縄文トランスプロジェクト」の様子

土偶大集結！展示の一部

※展示品は全てレプリカです



国宝・合掌土偶
八戸市風張1遺跡



道指定有形文化財・土偶
新ひだか町静内御殿山墳墓群



重文・遮光器土偶
つがる市亀ヶ岡石器時代遺跡



重文・遮光器土偶
盛岡市手代森遺跡



重文・大型板状土偶
青森県三内丸山遺跡



国宝・中空土偶
函館市若保内野遺跡

令和3年3月7日（日）、「縄文遺跡群のこれから～登録を見据えた活用を考える～」と題し、縄文遺跡群世界遺産登録推進本部・縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す北海道議会議員連盟・北海道・北の縄文道民会議主催でフォーラムを開催しました。

北海道博物館館長である石森 秀三氏の基調講演のほか、観光・経済・マーケティング各分野のエキスパートにお越しいただき、多角的な見地から縄文遺跡群について考える、パネルディスカッションを行いました。



石森氏の基調講演は「縄文遺跡群と現代世界－縄文人から学ぶべきこと－」と題し、民族学と観光学の分野から、世界遺産登録後の保護や活用といった様々な観点で北海道縄文遺跡群についてお話いただきました。

北海道・北東北の縄文遺跡群
世界遺産登録推進フォーラム
in 札幌グランドホテル



当日は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来場のほか Youtube にてライブ配信も行いました。アーカイブ配信を行っております。是非ご視聴ください。



<https://youtu.be/00jYh-JShfc>

会員メッセージ

コロナ禍による世の中の状況は、未だ終わりが見えてはいませんが、「コロナを克服し、平穏な世の中に戻った時、世界の多くの人々に、この広い空を見つめ、北海道の魅力を感じ、また貴重な遺跡群、縄文の人々の暮らしも是非見つめていただきたいと思っています。」

その長い時代、期間、人々がこの広い空、朝には澄んだ青空、夜は満点の星空を見つめていたと思うと、豊かな暮らし、幸せに満ちた、生き生きとした縄文の人々の営みが想像されます。

縄文時代は、約1万年もの間にわたって、長く続いた時代と言われています。今年が西暦で「2021年」ということを考えても、いかに長い時代であったかが解ります。

「空の広さ」はこれまで感じたことのない、広く、また澄んだものでした。

縄文時代は、約1万年もの間にわたって、長く続いた時代と言われています。今年が西暦で「2021年」ということを考えても、いかに長い時代であったかが解ります。

株式会社ケイエムアドシステム
札幌営業所長 浅田卓也 氏
(北の縄文道民会議会員)

【株式会社ケイエムアドシステム】
1968年（昭和43年）設立。
バス・電車・地下鉄車内の案内放送
広告やバスメディア広告、印刷物制作
業務などを全国規模で扱う。



◀大船遺跡（函館市）